

第2次 小樽市都市計画 マスタープラン (概要版)



令和2年4月

■都市計画マスタープランとは

都市は、住まい、買物、仕事、憩い、学び、文化を創造するなど、人々が様々な活動をする場です。そのため、安全、快適、機能的であることが求められます。

都市計画は、このような都市の形成を計画的に整備、誘導し、健康で文化的な都市での生活や機能的な都市活動を確保するため、市民の理解の下、都市計画法に基づく土地利用や都市施設などの都市計画決定による規制を規定しています。

個々の都市計画の規制に当たっては、都市全体の総合的・一体的な観点から調整、実施されなければならないこと、さらには、都市空間の適正配置等の実現には時間を要することから、中長期的な視点に立った都市の将来像を明確にする必要があります。

その役割を担うのが都市計画法第18条の2に位置付けられた都市計画マスタープランであり、総合的な大枠での将来像の実現に向けた方針を示すものです。

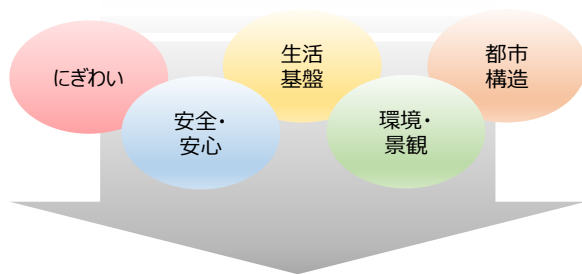
【主な役割】

- 市民意見を反映しながら、本市全体及び地域レベルのまちづくりの目標や基本的な方針を示します。
- まちづくりの目標を示すことにより、個別の都市計画に対する住民の理解を深めることができます。
- 土地利用や都市施設など、個別の都市計画間を調整する際の基本的な方針となります。
- 個別の都市計画の決定や変更の指針となります。

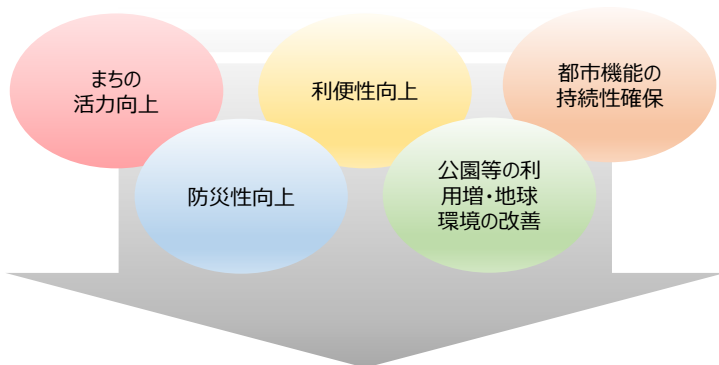
■まちづくりの目標とまちの姿

本マスタープランの将来都市像は、第7次小樽市総合計画と共有し、まちづくりの基本的な考え方を踏まえながら、都市計画の分野からその実現を目指します。

まちづくりの視点



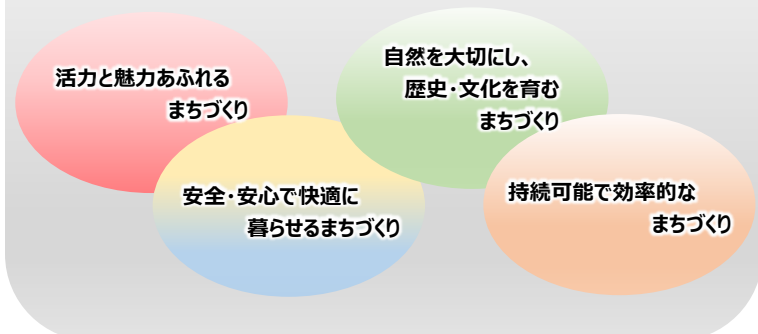
まちづくりの課題



将来都市像

『自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち 小樽』

◆基本目標



◆基本目標◆

●活力と魅力あふれるまちづくり

交流人口がもたらす経済効果でまちの活力を高めるため、多彩な地域資源を効果的に活用して何度も訪れたいと思える魅力的なまちを目指します。

また、広域交通ネットワークの形成に努めるほか、地域地区等の土地利用計画制度の活用により産業を誘導するなど、産業振興により働く場の確保を図り、移住・定住を促進します。

にぎわいのある中心市街地の形成やそれぞれの地域の個性を生かした拠点の形成を図るとともに、拠点間を交通ネットワークで結ぶなど、活力を生み出すまちづくりを目指します。

- 魅力を高め交流するまちづくり
- 広域交通ネットワークの形成
- 個性を生かした拠点の形成と連携
- 活力とにぎわいづくり

●安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

快適で利便性が高く、自然災害に強い生活基盤を充実することにより、高齢者や子どもに配慮した、全ての人にとって、安全・安心で暮らしやすく、住んでみたい・住み続けたいと思えるまちづくりを目指します。

- 移住・定住の促進に向けた快適な住環境づくり
- 全ての人にとって安全・安心で快適に暮らせるまちづくり
- 人にやさしいまちづくり

●自然を大切に、歴史・文化を育むまちづくり

豊かな自然環境や小樽の歴史、文化が息づく歴史的な街並みなどの資源を本市固有の財産として守り育て、魅力度の向上に資するまちづくりを目指します。

- 自然環境と調和したまちづくり
- 景観資源を守り育てるまちづくり

●持続可能で効率的なまちづくり

人口減少や少子高齢化などの社会動向に対応し、安全・安心で快適な都市生活を持続可能とする効率的なまちづくりを目指します。

- 効率的なまちづくり
- 地域公共交通網の形成

◆まちの骨格◆

本市の都市構造（都市環境の形成、広域交通ネットワーク、エリアと連携軸）の形成について、基本的な考え方を整理します。

◆都市環境の形成

市域を構成する環境特性を明確にするため、都市環境を「海岸」「森林」「田園」「市街地」「水資源」の5つに区分し、整備、開発及び保全に関する方針を明らかにします。

海岸環境区域

- ・自然環境の維持・保全

森林環境区域

- ・自然環境の維持・保全

田園環境区域

- ・生産環境の維持・保全

市街地環境区域

- ・生活環境の整備・開発

水資源環境区域

- ・水資源環境の保全

◆広域交通ネットワークの形成

主要道路網、鉄道、港湾による地域間や都市間を連絡する広域交通ネットワークを設定し、広域的なつながりを明確にします。

◆エリア

様々な交流や生産活動の場である主要な地区をエリアと位置付け、エリア間を連携するネットワークづくりを進めます。

生活・便利・にぎわいエリア

- ・商業の振興やまちなか居住を促進

市民潤いエリア

- ・施設の充実を図り、潤いのある空間の維持

生産・物流エリア

- ・既存工業機能の集積や新たな産業の立地に対応
- ・生産活動を支える機能の適切な維持

観光・歴史交流エリア

- ・中心市街地との回遊性の向上

観光・レクリエーション交流エリア

- ・中心市街地との連携
- ・魅力ある観光・海洋レクリエーションのエリアとして活用
- ・自然環境に配慮し、親水エリアとして活用

山麓ライン交流エリア

- ・特色のある観光・レクリエーションの場として活用
- ・自然環境に配慮し、観光・レクリエーションの場として活用

広域交通結節エリア

- ・小樽観光や後志圏への玄関口としての役割

◆連携軸

「生活」「生産」「交流」のエリアを連絡するネットワークを設定し、まちづくりの軸を明確にします。

骨格軸

- ・広域的なネットワークを形成する軸
- ・多様な都市活動を支え、地域の活力を高める軸

海岸連携軸

- ・産業や交流の連携を担う軸

山麓連携軸

- ・産業や流通に寄与する広域的な交通を担う軸

産業連携軸

- ・港湾機能と生産・流通機能の連携を担う軸

生活軸

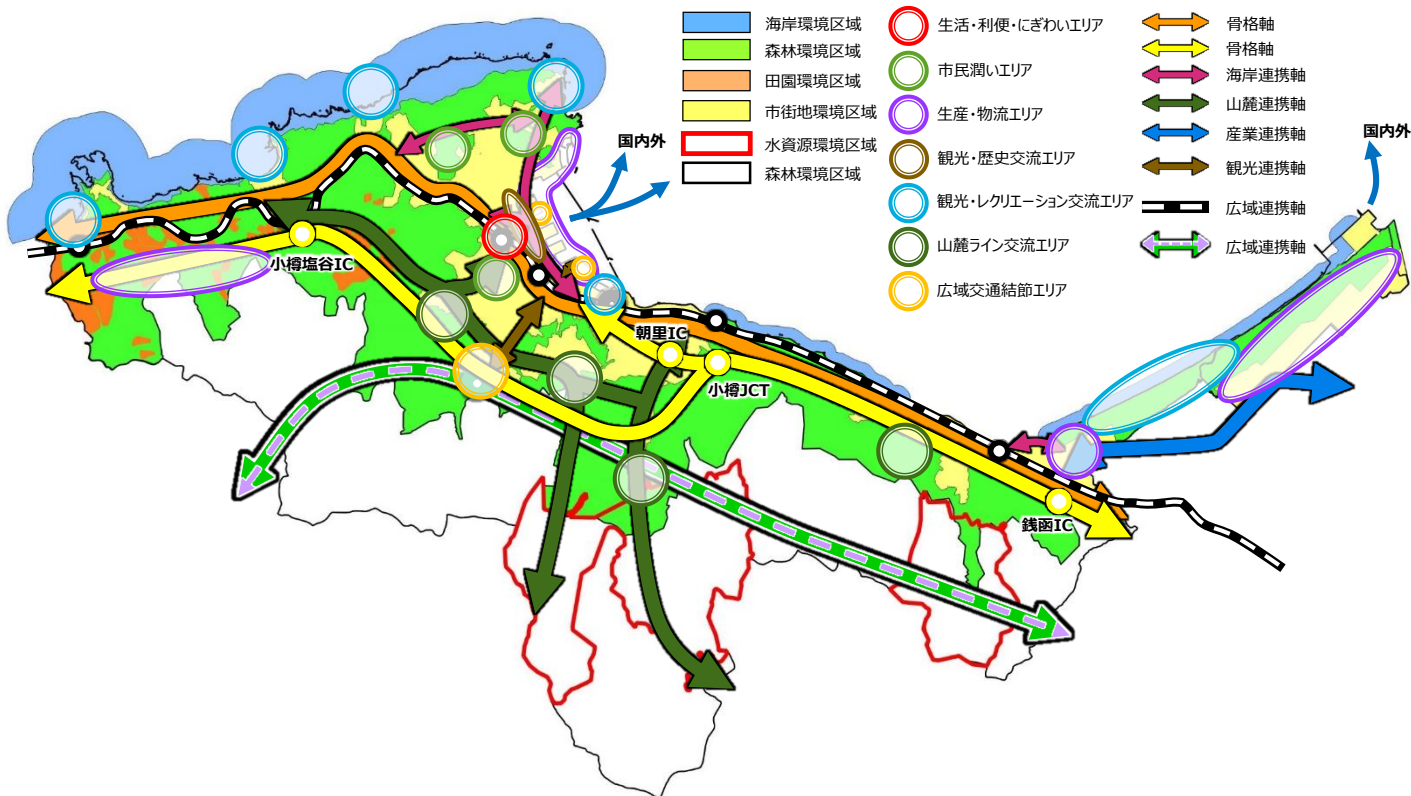
- ・市道を主体とした日常生活を支える軸

観光連携軸

- ・観光振興に資する円滑な移動を支える軸

広域連携軸

- ・交流の促進や経済活動の活性化に寄与する広域的な交通を担う軸



■部門別方針

●土地利用の方針

豊かな自然環境の保全、快適な生活環境の確保、活力ある産業の振興などが適切に図られるよう、調和の取れた土地利用を進めます。

また、地域ごとに計画的な土地利用を誘導し、中心拠点と複数の地域拠点に都市機能が集約され、それらが交通ネットワークで結ばれた効率的なまちづくりを目指し、市街地の無秩序な拡大を抑制するとともに、公共施設などの都市機能の適正な配置と誘導を進め、暮らしやすく機能的な市街地の形成に努めます。

●交通の方針

自然環境への配慮、地域特性や人口減少、少子高齢化などへの対応、長期末整備の都市計画道路など、これらの多様な課題に適切に対応し、将来へ向けた活力ある小樽を創造するために、地域経済と暮らしを支え、人と地域の結び付きと交流に寄与する交通ネットワークの確立を目指します。

●緑の方針

■公園・緑地等の方針

地域の特性を生かした魅力ある公園・緑地の整備及び利活用を進め、緑を育み、緑と親しむ機会の充実を図ります。

■自然環境の方針

海岸線や市街地背後に広がる山々は、市街地全体が緑に恵まれていると感じさせる効果を持ち、市街地背後の緑は雨水貯留、土砂流出防止などの都市防災上重要な役割も果たしているため、これらの自然を保全し、次世代に継承していきます。

●生活環境の方針

■住宅・住環境の方針

子どもを産み・育てやすく、全ての人が安心して、快適に住み続けられる住宅・住環境の形成に努めます。また、空き家対策を総合的かつ計画的に進めるほか、低・未利用地の積極的な活用の誘導に努めます。公共施設は、必要な再編や更新を進め、跡地利用については、地域の発展や本市のまちづくりに資する活用について検討します。

■人にやさしい空間の方針

住み慣れた地域社会の中で暮らせる、人にやさしいまちづくりを目指します。バリアフリーを含めたユニバーサルデザインに配慮した空間づくりに努めます。

■その他の都市施設の方針

下水道やごみ処理施設などの生活関連施設の適切な維持・管理に努め、快適な生活環境の確保を目指します。

●都市景観の方針

豊かな自然景観、歴史的建造物、文化財等良好な都市景観を保全、育成、創出するまちづくりを市民と協働で進めます。

●都市防災の方針

都市基盤施設の耐震化・不燃化の促進、水道・電気等のライフラインの確保、河川の改修など防災機能の強化を図り、市民が安全で安心して将来にわたり住み続けられるまちづくりを目指します。

■地域別方針

地域別方針の策定に当たり、市民意向を把握するため市民アンケートや地域別懇談会などを行い、地域についての生活環境の評価や地域の宝物、地域に望むものなどの意見を頂きました。これらの意見等を反映しながら地域別方針を策定しました。

●塩谷地域

『豊かな自然や歴史とともにある暮らしやすさを実感できる地域』

地域づくりの目標

- 豊かな自然・歴史を感じることのできる住環境づくり
- 地域特性を生かした産業の活性化
- 地域の利便性の向上
- 魅力ある観光・レクリエーション交流エリアの形成

・住宅や店舗などの生活利便施設などが過度に混在し、身近でサービスが受けられる利便性の高い住宅地の維持・創出を図る

観光・レクリエーション交流エリア
・海水浴やマリンスポーツなどを楽しむ交流の場として、自然環境に配慮しながら活用を図るとともに、季節に応じた魅力の発信に努める

塩谷海岸・塩谷海水浴場
・海水浴場としてにぎわっている
・きれいな海

青の洞窟
・手を入れないでそのまま活用すべきである
・観光船で訪れる観光客が多い

・交通状況や市街地環境に配慮しつつ、沿道におけるサービス施設の立地を誘導し、周辺の利便性を高める

・周辺の自然環境や営農環境に配慮しつつ、生活環境の維持・保全に努めるとともに、必要に応じて地区計画制度の活用を検討

・周辺住宅地の生活サービスを担う身近な生活利便施設や住宅などが複合する拠点性のある商業地の形成を図る

・都市型工業と住宅が共存する職住近接型の地区として、都市型工業の集積や既存施設機能の更新においては、周辺環境との調和に努める

・交通状況や市街地環境に配慮しつつ、沿道におけるサービス施設の立地を誘導し、周辺の利便性を高める

観光・レクリエーション交流エリア
・海水浴やマリンスポーツなどをを楽しむ交流の場として、自然環境に配慮しながら活用を図るとともに、季節に応じた魅力の発信に努める

・周辺住宅地の生活サービスを担う身近な生活利便施設や住宅などが複合する拠点性のある商業地の形成を図る

・良好な都市環境を維持していく上で重要な緑の骨格軸として、地域の特性に応じ、河川管理者と調整を図り、親水性などに配慮した水辺環境の創出に努める

生産・物流エリア
・生産・物流エリアは貴重な生産地であることから、都市近郊型農業の場として維持・保全を基本としながら、生産活動を支える複合的な施設立地への対応についても検討

・地域の特性を生かした歴史や文化と触れ合える場として活用を検討

・北海道横断自動車道（黒松内～小樽）の早期整備を促進し、後志圏の高規格幹線道路ネットワークの形成により、物流の円滑化など、社会経済活動の活性化を図る

・適切な維持・管理による延命化を促進

伊藤整文学碑（ゴロダの丘）
・海と山が一望できる
・小樽出身の文学者を周知したい

・周辺の自然と調和した低層建物を主体とするゆとりと落ち着いた良質な住宅地として、良好な住環境の維持・創出を図る

・地域内外におけるアクセスの充実を図るため、整備を促進

・良好な都市環境を維持していく上で重要な緑の骨格軸として、地域の特性に応じ、河川管理者と調整を図り、親水性などに配慮した水辺環境の創出に努める

●長橋・オタモイ地域

『身近な自然と調和した安心、快適に暮らせる地域』

地域づくりの目標

- ゆとりある良好な住環境づくり
- 地域コミュニティや安全・安心で快適な生活を支える都市基盤の形成
- 潤いある自然環境の保全

観光・レクリエーション交流エリア
・海食された地形が連続する景勝地などの自然を保全・活用するとともに、季節に応じた魅力の発信に努める

オタモイ唐門
・不思議で珍しい

・良好な住環境に配慮しつつ、周辺低層住宅地の生活サービスを担う身近な生活利便施設の誘導を促進し、日常的な生活利便性の維持・向上を図る

・周辺の自然と調和した低層建物を主体とするゆとりと落ち着いた良質な住宅地として、良好な住環境の維持・創出を基本としつつ、オタモイ、幸の計画的に開発された住宅地については、幅広い世代が住み続けられるよう、ライフスタイルの変化やライフステージに応じた多様な居住ニーズに対応する

長橋なえほ公園
・四季折々の鳥や花が見られ、自然を楽しめる
・自然観察しながら散歩ができる

市民潤いエリア
・自然を生かした体験学習の場として、施設の活用を図る

・低層建物と中高層建物が共存する中密度の住宅地として、良好な住環境の維持・創出を図る

・周辺住宅地の生活サービスを担う身近な生活利便施設や住宅などが複合する拠点性のある商業地の形成を図る

・住宅や店舗などの生活利便施設などが過度に混在し、身近でサービスが受けられる利便性の高い住宅地の維持・創出を図る

オタモイ海岸
・景色がきれいな
・奇岩や絶壁が連なっている海岸

・都市型工業と住宅が共存する職住近接型の地区として、都市型工業の集積や既存施設機能の更新においては、周辺環境との調和に努める

・交通状況や市街地環境に配慮しつつ、沿道におけるサービス施設の立地を誘導し、周辺の利便性を高める

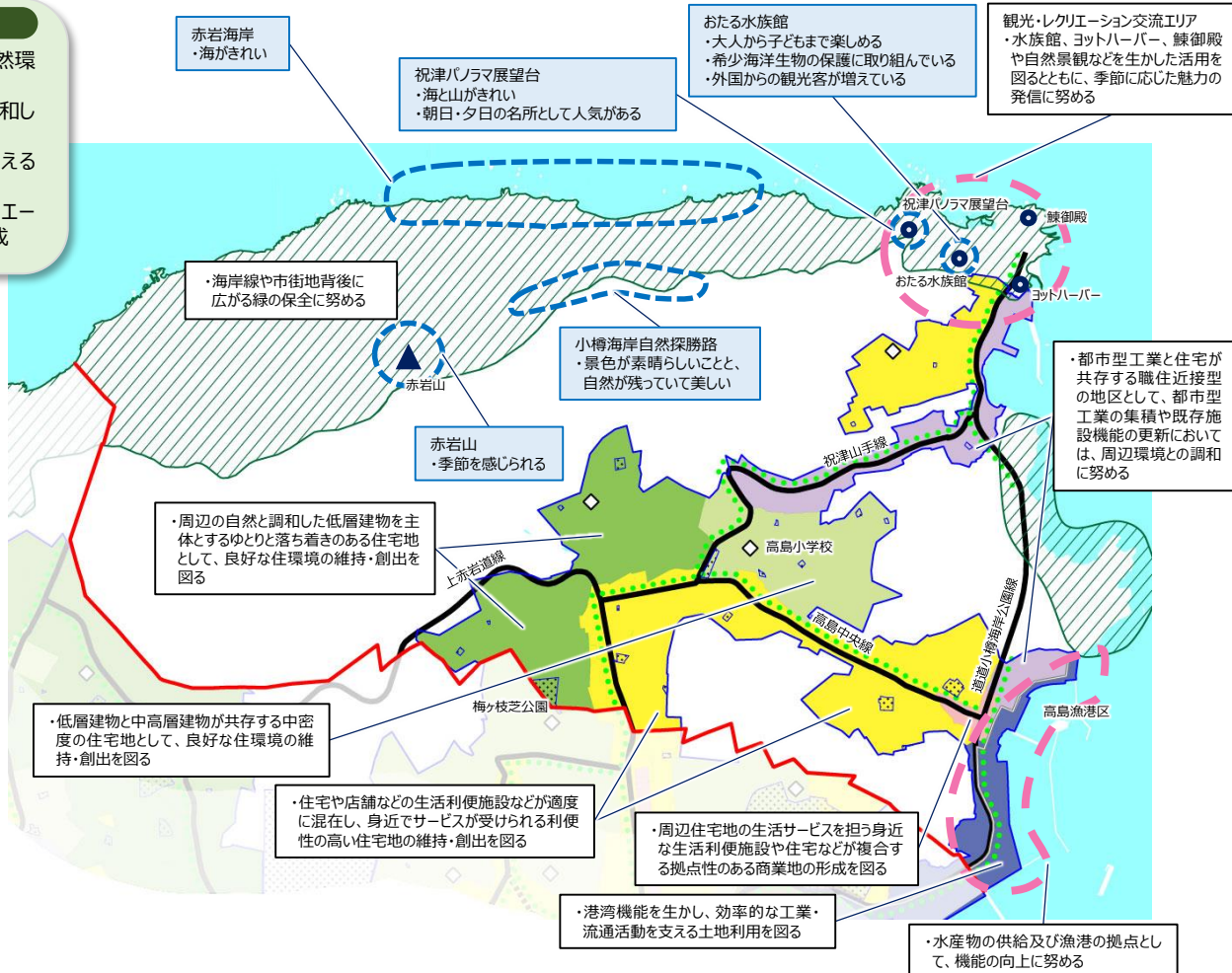


●高島地域

『海の資源を大切に、自然の魅力を感じることもできる地域』

地域づくりの目標

- 魅力ある恵まれた自然環境の保全と活用
- 豊かな自然環境と調和した住環境づくり
- 漁業生産活動を支える機能の向上
- 魅力ある観光・レクリエーション交流エリアの形成

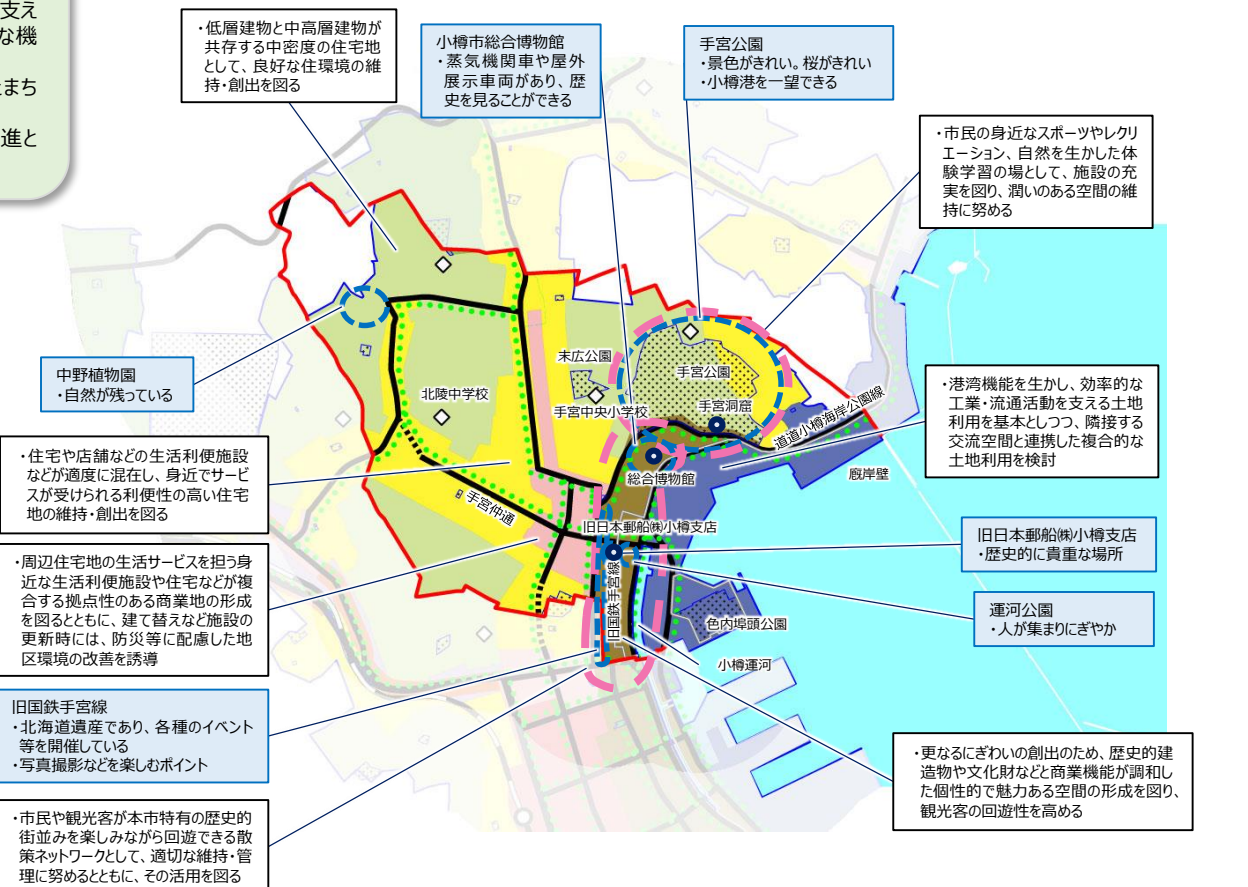


●手宮地域

『特色ある歴史やコミュニティを大切に、活気ある生活が息づく地域』

地域づくりの目標

- 安心で快適な生活を支える住、商、工の良好な機能配置
- 地域資源を生かしたまちの魅力の向上
- 産業活動の利便増進と周辺環境との調和



- 自然とのふれあいの場など
- 都市環境等
- 主な宝物（市民の選定理由及び観光視点から見た地域資源）
- 自動車専用道路
- 道路（現道あり）
- 道路（現道なし）
- J R（在来線）
- 北海道新幹線
- 都市公園
- 海岸線の保全
- 街路樹等の道路の緑
- 河川の緑

●中央地域

『人が集い、にぎわいあふれる、魅力的で歴史と共存する地域』

地域づくりの目標

- 活気ある中心市街地の形成
- にぎわいある交流空間の形成
- 小樽らしい景観の形成

・本市特有の歴史・文化・街並み景観など地区の特性を生かした商業の振興や、多様な都市機能の誘導に努め、更なるにぎわいの創出を図るとともに、利便性が高い特性を生かし、周辺地域とのバランスに配慮しつつ、まちなかに居住を促進

・特に、JR小樽駅周辺の中心商業ゾーンは、市街地再開発などの面的整備を促進し、土地の高度利用や都市機能の更新を図る

・JR小樽駅の駅前広場は、交通結節点として求められる機能・施設について検討し整備を図る

・JR小樽駅周辺などにおける交通の円滑化と利便性の向上を図るため、必要に応じて駐車場整備計画を策定するなど、計画的な駐車場の配置に努める

・緑の少ない中心部において都市緑地法に基づく緑化重点地区の指定を検討

・国道5号などの無電柱化などを促進し、安全で快適な歩行者空間の創出や良好な景観の形成に努める

・住宅や店舗などの生活利便施設が適度に混在し、身近でサービスが受けられる利便性の高い住宅地の維持・創出を図る

市立小樽図書館
・静かな場所

・市民の身近なスポーツやレクリエーションなどの場として施設の充実を図り、潤いのある空間の維持に努める

・市民や観光客が本市特有の歴史的街並みを楽しみながら回遊できる散策ネットワークとして、適切な維持・管理に努めるとともに、その活用を図る

旧国鉄手宮線
・歴史を感じられる貴重な場所
・整備された散策路で歴史と緑を感じられる
・写真撮影などを楽しむポイント

龍宮神社
・中心街発展の基となった
・隕石から造った流星刀がある

小樽運河

小樽運河
・小樽の象徴で、観光資源
・にぎわいがあり街並みがとても素敵
・倉庫群と一体となった景観は観光の象徴とも言える

・国際旅客船ふ頭を核とし、観光・商業施設と一体となった、にぎわいある交流空間の創出を目指す

・更なるにぎわいの創出のため、歴史的建造物や文化財などと商業機能が調和した個性的で魅力ある空間の形成を図り、観光客の回遊性を高める

日本銀行旧小樽支店
・小樽の繁栄を象徴する建物
・金融資料館として外観とともに観光客に人気のある施設

・港湾機能を生かし、効率的な工業・流通活動を支える土地利用を基本としつつ、隣接する交流空間と連携した複合的な土地利用を検討

・小樽港臨港地区の主要な道路である臨港道路小樽港縦貫線の整備を推進し、物流機能の強化を図る

堺町通（本通線）
・歴史的建造物と近代的建物が同時に見られ、常ににぎわっている

水天宮
・境内に樺太国境石のレプリカがある
・盆踊りやお祭りの思い出がある

・身近な生活利便施設や住宅などが複合する拠点性のある商業地の形成を図るとともに、利便性が高い特性を生かし、周辺地域とのバランスに配慮しつつ、地区内やその周辺への居住を促進

小樽市役所
・歴史を感じる

小樽公園
・まちや海を一望できる
・運動環境が整備されている
・まちなかにあり、散策が楽しめる

●山手地域

『落ち着きある暮らしと豊かな自然を大切にしたい安心・快適な地域』

地域づくりの目標

- 落ち着きある良好な住環境づくり
- 自然に囲まれた憩い空間の形成
- 交通アクセスの充実による利便性の向上

・優れた眺望と自然環境を生かした自然との触れ合いの場として、気軽に自然散策などが楽しめる市民の憩いの場として活用されており、今後も適切な維持・管理に努める

旭展望台
・身近にあって散策を楽しみながら市街地を眺望できる

からまつ公園
・自然が豊か

旭展望台

西陵中学校

稲穂小学校

・周辺住宅地の生活サービスを担う身近な生活利便施設や住宅などが複合する拠点性のある商業地の形成を図る

・住宅や店舗などの生活利便施設などが適度に混在し、身近でサービスが受けられる利便性の高い住宅地の維持・創出を図る

入船公園
・子どもが遊ぶことができる

・地域内外におけるアクセスの充実を図るため、整備を促進

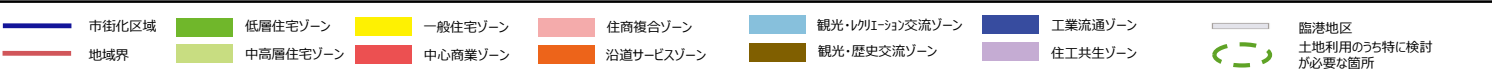
山麓ライン交流エリア
・ハイキングやウィンタースポーツなど、市民や観光客など多くの人が親しめる交流の場として、自然環境に配慮しながら活用を図るとともに、季節に応じた魅力の発信に努める

天狗山（天狗山スキー場）
・市街地が一望できる
・スキーや登山が楽しめる
・眺望が人気で外国からの観光客が増加している

天狗山

・低層建物と中高層建物が共存する中密度の住宅地として、良好な住環境の維持・創出を図る

・周辺の自然と調和した低層建物を主体とするゆとりと落ち着きのある住宅地として、良好な住環境の維持・創出を図る

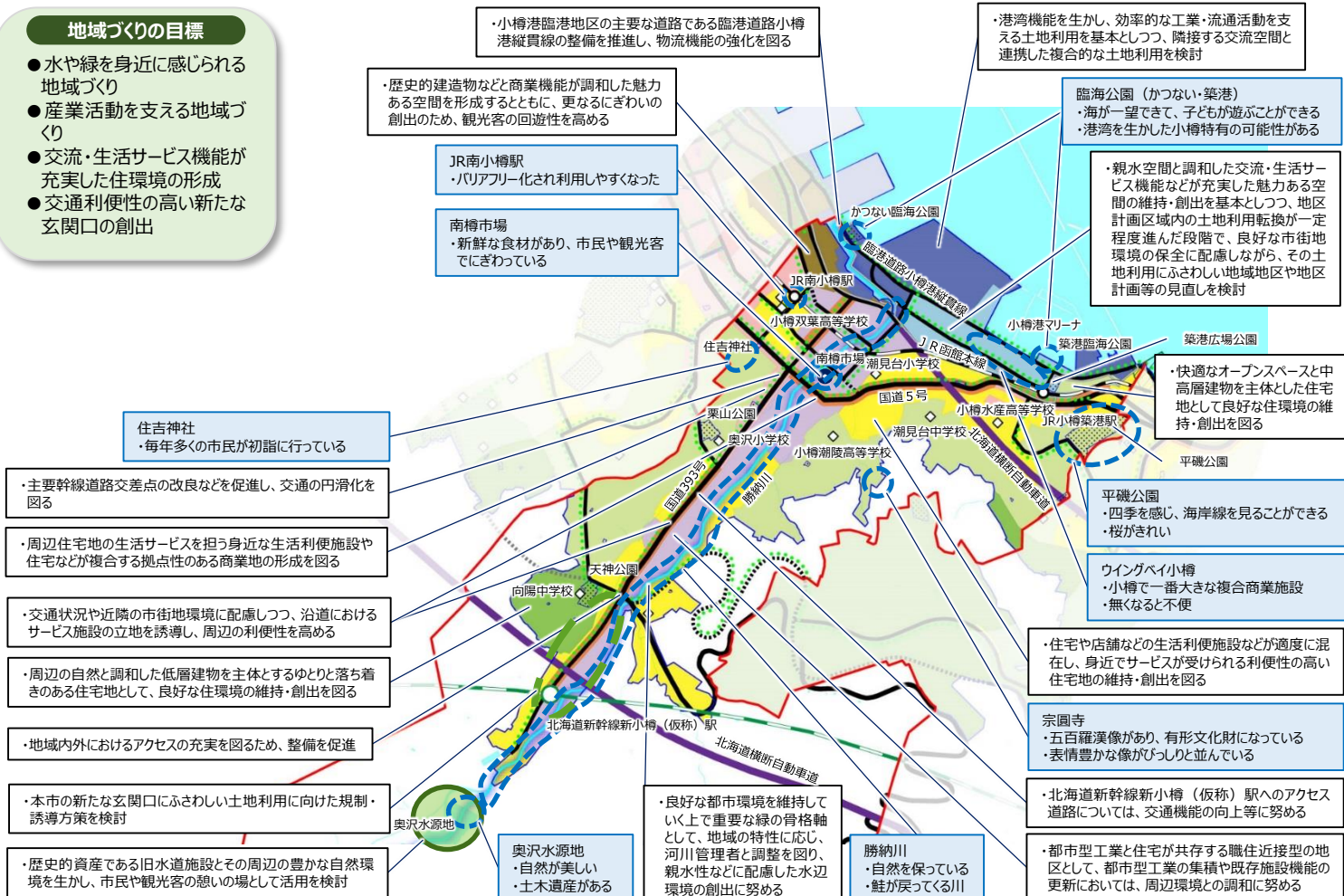


●南小樽地域

『産業活動を支えるとともに自然を大切に安全・安心で快適な地域』

地域づくりの目標

- 水や緑を身近に感じられる地域づくり
- 産業活動を支える地域づくり
- 交流・生活サービス機能が充実した住環境の形成
- 交通利便性の高い新たな玄関口の創出

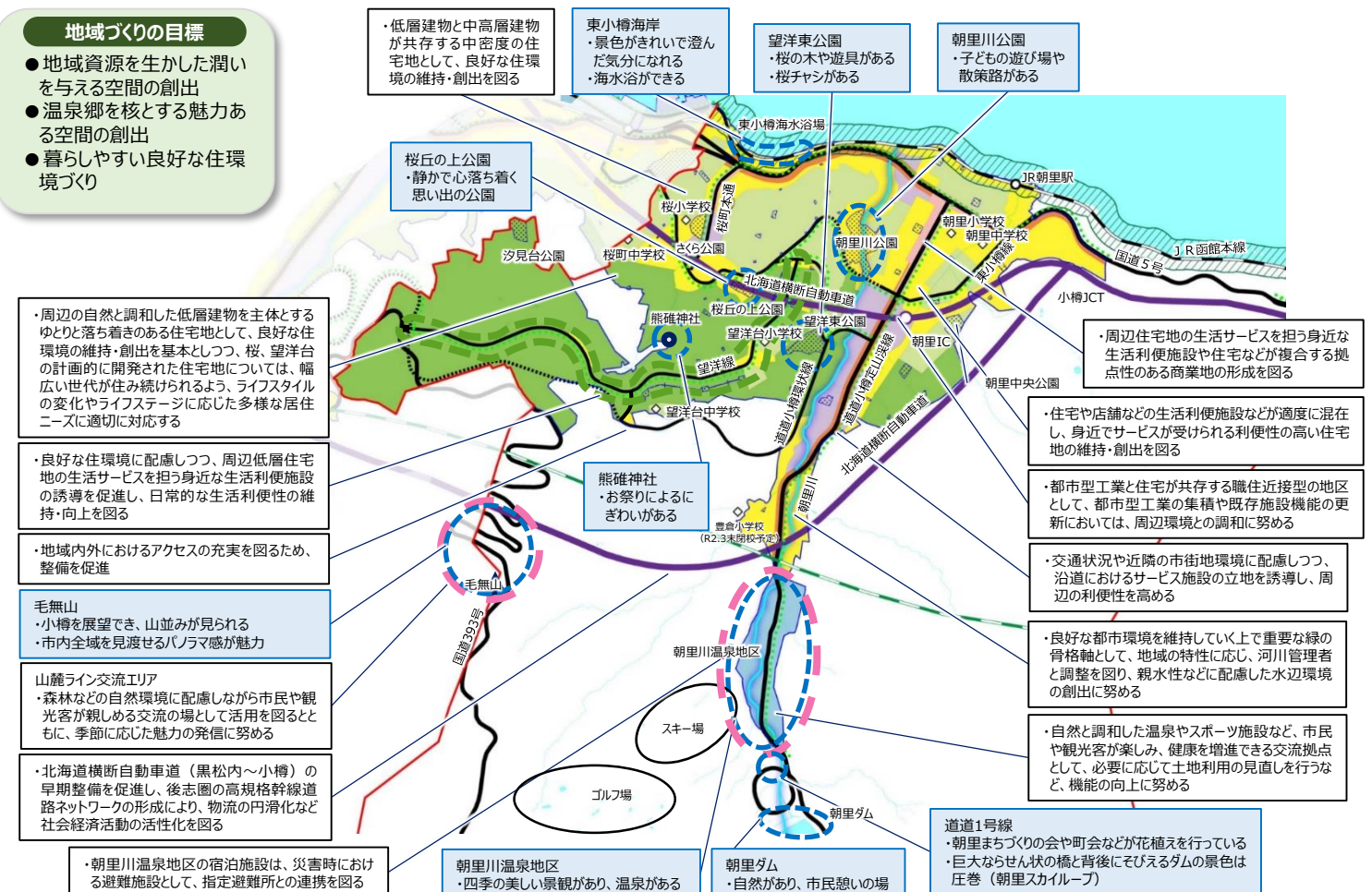


●朝里地域

『地域資源を生かした魅力の創出と暮らしやすい地域』

地域づくりの目標

- 地域資源を生かした潤いを与える空間の創出
- 温泉郷を核とする魅力ある空間の創出
- 暮らしやすい良好な住環境づくり

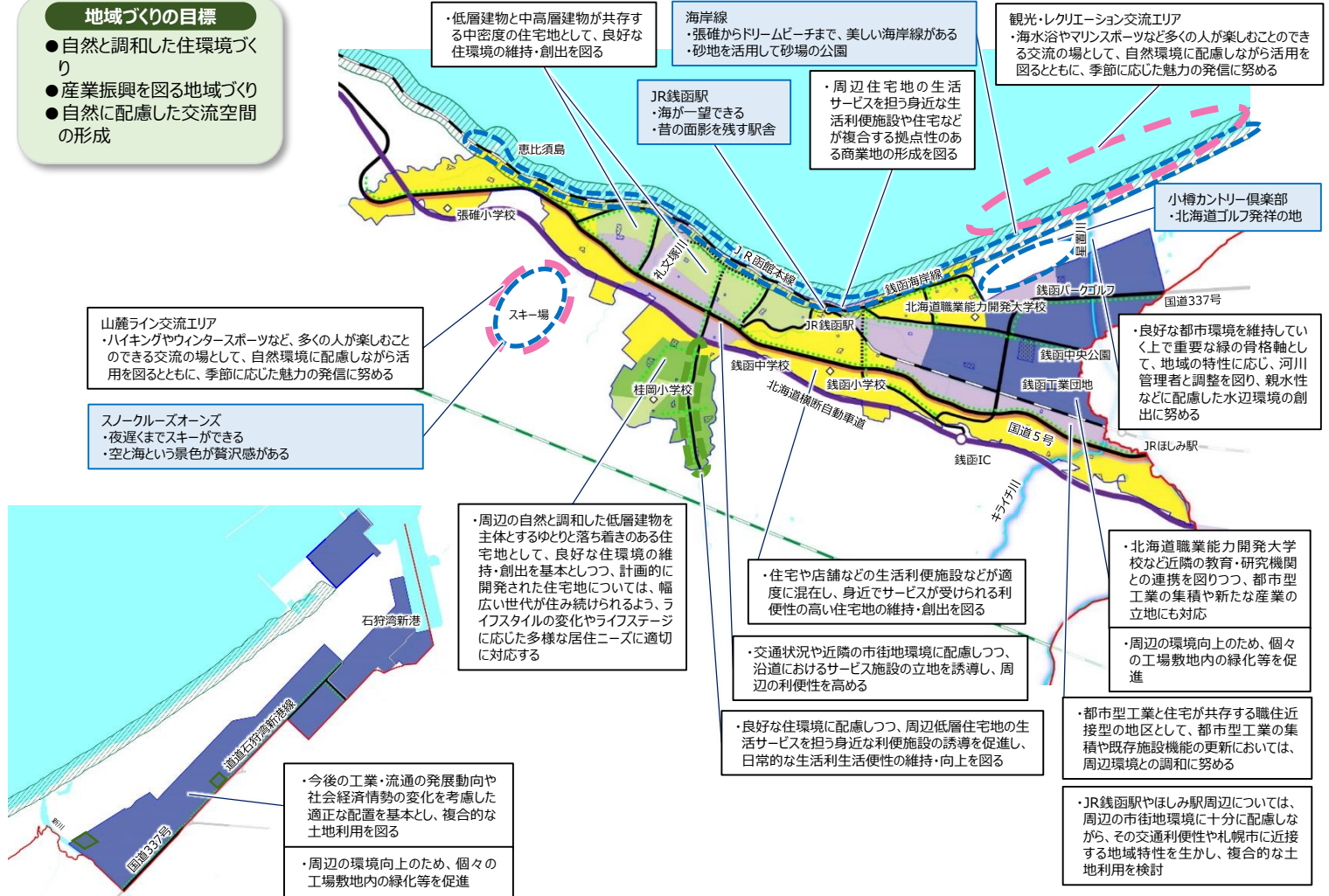


● 銭函地域

『自然と調和した住環境や交流空間の形成と活発な産業活動を支える地域』

地域づくりの目標

- 自然と調和した住環境づくり
- 産業振興を図る地域づくり
- 自然に配慮した交流空間の形成



■ 都市計画マスタープランの実現に向けて

本マスタープランは、人口減少や少子高齢化などの社会情勢においても持続可能なまちの発展を図るため、市民意向を反映しながら基本目標を定めています。これらの目標の実現のためには、市民等の積極的なまちづくりへの参加が大切です。

本市では、自治基本条例において、まちづくりを進める上での基本的な考え方として、「情報の共有」、「参加及び協働」を規定しているほか、市民や市などそれぞれの役割や責務などについて定めていることから、この条例の基本的考え方を共有し、本マスタープランに示した方針の実現を目指します。



第2次小樽市都市計画マスタープラン（概要版）

小樽市建設部都市計画課

〒047-8660 小樽市花園2丁目12番1号

TEL : 0134-32-4111(内332)

E-mail : tosiikei@city.otaru.lg.jp

FAX : 0134-32-3963

<https://www.city.otaru.lg.jp/>